

企業が抱えている様々な問題、顧客に対するアイデアであつたりソリューション、提案力、もしくは若手社員の育成、社内の活性化、技術開発力、提案力などなど。ひとつの打開策として考え方や価値観のちがう人を入れることに特殊性が見いでしませるのではないか。学生が就職活動をし、働き始め後にミスマッチを感じ、転職もしくは精神的に負の悪循環に陥ってしまうという社会現象のある中で、学生生活の中での企業の職場体験をしきりの体験の中で自分が仕事としてやり得きる知識を得る

場又、自分らしさを見失わず、組織や社会に対してもどのように貢献できるか、このようなことをできるためのきっかけをつくる。

企業と学生、それが抱えていける問題の解決策のひとつとしてインターンシップは効果的な手段であると考えています。弊社では今年度、2名の学生を受け入れました。ひとりは高知大学生、もう一人は慶應義塾大学生です。それぞれ緑化面面緑化のブースについて高知大学の堀内さんは「開催中に行いたいイベント」、クシヨツプの提案、慶應義塾大学の真道さんは実際にブリ

スタジオで、アーティストを運営していく。インスタグラム、フェイント等のSNSを用いて、石井造園が店舗を宣伝していく。これまでの経験から、アーティストのマネジメントや、アーティストとの接点を増やすことで、アーティストの成長を促進する。また、アーティストの活動範囲を広げ、地域社会への貢献も行っている。



ついでに 無理なく 達成感 のある活動

伝統技術の継承と企業ができる教育



伝統技術の継承

はまっ子未来カンパニープロジェクト

今年度の横浜市に自分で申請して横浜市に新規のアドバイスをうけた。このアドバイスは、主に以下の通りである。
1. 教育機関との連携による学習支援：地域の教育機関と連携し、定期的な学習支援を行っている。また、地域の専門家による個別指導も受けている。
2. 学校行事への参加：地域の学校行事への積極的な参加を通じて、地域社会とのつながりを深めている。
3. 地域活動への参画：地域の各種活動への参画を通じて、地域社会への貢献意識を高めている。
4. 地域資源の活用：地域の資源を活用して、地域社会への貢献活動を行っている。
5. 地域社会との連携：地域社会との連携を通じて、地域社会への貢献活動を行っている。

長期インターンシップ

カーボンオフセット

一カーボンとして、^{1t CO2}を横浜市漁業協同組合におけるわがめの地産地消によるCO2削減事業にクレジット購入しました。



～活き活き活動・地域に貢献～

石井造園の取り組み紹介



出店者の皆様が、繋がつていく幸せが、共に有を目の当たりにするイベントです。とつておきの逸品として地元野菜の販売や、地元の漁師さんから仕入れた魚で作られた薩摩揚げ、大人気の消しゴムハンコなどが出品され、大賑わいでした。皆さんお買い物をしながら、人との繋がりを感じているように思いました。

そして、お買い物は、出展者になつていいにいらした方が次回来る、という物語も生まれてきました。

石井造園が地域に無くてはならない企業として成長していると実感しています。

年間を通して継続的に行つている子供空閒ワーキングシップは日本建築家協会が主催する空間ワーキングシップであり、参加する子供達の発想力には毎回驚かされます。チームで物事を成し遂げる力、想い描いたものを形にできた時の喜び、問題にぶつかって克服したときの感動など、もづくの醸酬味を体験してもらえたたらと思っています。

そのような場を作り、ファシリテーターとして参加することとで、我々も、子供たちから学ぶ事が多くあります。先ほど述べた「成長」とは正にこのことであり、社会貢献をすることが多くあると感じます。

N P O 法人環境文
明主催による「**2011年度経営者「環境力」大賞**」を受賞いたしました。この背景には地球温暖化、生物種の絶滅、生活環境、経済環境の悪化を防い止めようといふ思いや、未来へと続く持続可能な社会を構築したいといった願いがあります。この審査には、「21世紀の社会をリードする経営者の資質」という12の項目があり、うち12に対する思いや考え方、事業活動などを「環境力を」自己評価した書類を提出したところ8社の中には弊社が選ばれました。



環境に対する取り組み

ワーク＆ライフバランスへの取組み

一件は事故・病気による介護の発生で、30歳で親元にもどり、いずれも退職・転職となり、経営資源としての人的喪失となりました。この事が機会にセミナーの開催に至るのです。が、その両立するポイントのひとつに、勤務先の両立支援制度を利用する手段をとりました。現在この支援制度を策定中です。

ことなどがあげられました。もしかしたら自分が間違つているかもしれません。個人の資質が仕事に対するやりがいを感じます。このように私生活で活動するかもしれないという客観的な自己批評も必要だと指導して頂きました。このように私生活で活動するよりも、個人の資質が仕事に対するやりがいを感じました。